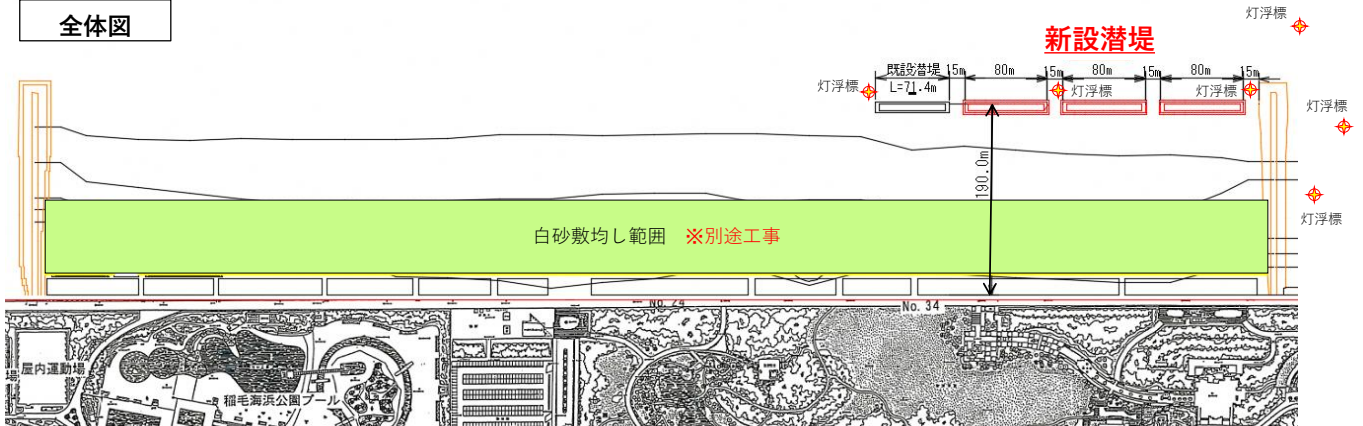


砂の流出抑制対策 ～ 潜堤設置工事 ～

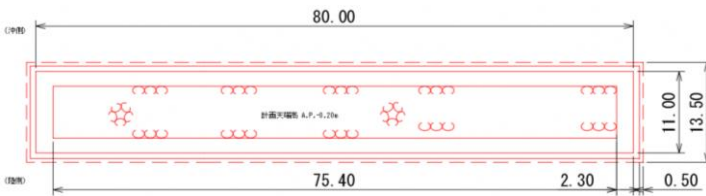
いなげの浜は、人工海浜であり、河川からの砂の供給がないため、これまで浸食が進んでいました。特に検見川側では、浸食傾向が強く、満潮時には砂浜がほぼ消失する状況となっていました。そこで、白砂による養浜工事（砂の補充）に先立ち、平成30年7月～令和元年5月まで、「潜堤」という砂浜の浸食を抑制する施設の設置工事を行いました。

全体図

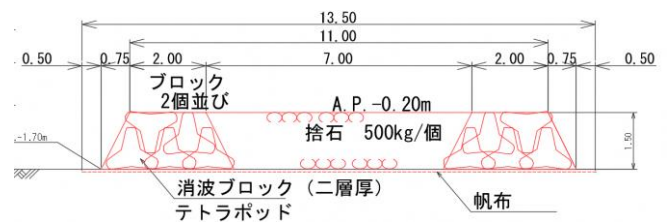


潜堤は波の力を弱めることで、波浪や潮流による砂の流出を抑制します。干潮時でも海面から出ないため、いなげの浜から確認することはできませんが、周囲の灯浮標からその位置を知ることができます。

大きさは、幅13.5m×延長80m×高さ1.5mで今回、合計3箇所に設置しており、消波ブロックで四角く作った枠の中に1個約500kgの捨石を詰めた構造です。また、設置工事の前には、季節ごとの波の影響等について事前のシミュレーションを行い、効果を検証しました。



平面図 (潜堤1箇所当り)



断面図 (潜堤1箇所当り)

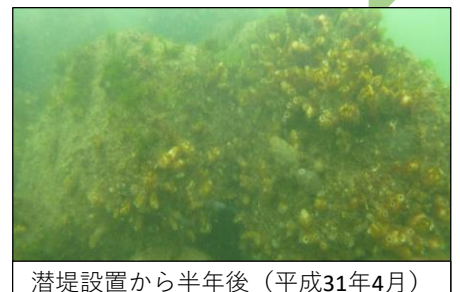
工事後の効果



潜堤設置前 (平成30年4月)



潜堤1基設置後 (平成30年9月)



潜堤設置から半年後 (平成31年4月)

潜堤の設置後には、潜堤設置個所のちょうど向かいの砂浜に、大量の砂の堆積があり、潜堤による一定の浸食防止効果を確認することができました。

消波ブロックや捨石は、藻類が付着しやすい鉄鋼スラグ水和固化体を使用しました。付着した藻類による水質の浄化や生物の生息環境としての効果も期待できます。